

るので注意を要する。

ツキヨタケ 毒きのこ。食用のムキタケと間違えないよう注意のこと。

## 五 しだ類

ウラジロ シダ類の代表格、山中に自生し群生している場合が多い。

新年にユズリ葉とともに飾り物に用いる。

ワラビ 山菜として人間と親しみ深い存在。山野の林縁や伐採跡、山焼き跡など日当たりのよい斜面に多い。保存できるので重宝。

ゼンマイ 山野に自生する多年草。若芽の時は握り拳のような形で白い綿毛に包まれている。これも保存でき山菜料理に欠かせないもの。

シノブ 深山の岩肌や樹皮上に着生する。根茎を輪状またはかご状に組んで「シノブ玉」としたり「ツリシノブ」を觀賞する。

ノキシノブ 樹皮、岩肌、古い軒屋根に見られる。葉の裏面に孢子囊群が並んでいる。同種にヒメノキシノブ・ミヤマノキシノブ・ビロードシダなどがあり、いずれも觀賞用。

フウラン 樹木の幹に着生する常緑の多年草。伊良原、藤ノ宮や帆柱の神社、大村の永井氏宅などで見受ける。

シシラン 岩壁や大木の樹幹に垂れ下がる。シダ類として変わった種類。

キジノオシダ 山道の斜面でもよく見かける。きちんと並んだ葉の形が、キジノオに似ている。

イノモトソウ 井戸など水気が多い所に生える。岩のくぼみや崖などにもよく見る。

リョウメンシダ 葉の表と裏の区別がないのでこう呼ばれる。水気のある谷などに生え常緑性である。

シシガシラ 山野によく見る。葉は地面を這っている。

オオカゲマ 長さ一拵もある大型のシダで、乾いた山の斜面や杉林の下に力強く生育している。

マメヅタ 山中の岩上や大木の幹に、豆のような丸い小さな葉をびっしりつけているが、よく見るとつる状に長く這っているこの名がある。ウラボシ科のシダに類する。

## 六 蘚 苔 類

ミスゴケ 吸水・保水性が著しいので、植え木や苗木などの根に巻いて保水用に用いる。一般に苔類は地表を覆って保水力を高めるので水源涵養林での苔の役目は大きいとされている。

スギゴケ 蘚苔類中の蘚類に属し、その代表種と言える。隠湿な地上に群生する。葉が密生し杉枝状になる。庭園や植木鉢に植え込み觀賞用とする。ウマスギゴケ、オオスギゴケなどの同種がある。

ジャゴケ 苔類でゼニゴケ目に属する。平たく地表や岩上につく。表面に蛇のうろこ型の紋がある。

ヒカゲノカズラ 山地の斜面に自生する常緑のつる性多年草。長く地上を這って二拵にもなる。「天狗の腰巻」の別名がある。